

怖い“世論”形成

高市首相 その③

山口 洋司



尼崎医療生協のあおぞら会館に建立された
「憲法九条の碑」 2025 年 12 月13日

高市さんの軽率な発言で、中国は猛反発し、今も日本の経済は大きな打撃を受けています。高市さんのため、大きな損失が続いています。

日本経済は中国との交流なしでは考えられません。

中国が台湾に侵攻し、武力攻撃が発生したら日本の存立危機事態にあたる、との高市さんの不用意な発言は即、撤回をすべきなのに、発言を反省する、とはいうものの高市さんを支える右派の保守層の反応が恐くて撤回はしません。レーダーの照射など事態は日々悪化しています。

反省するなら撤回をすればいいものを意地をはっているんです。こんな積み重ねが大事になるケースはこれまでにいっぱい見してきました。

気になるのは“世論”です。

メディアは中国からの渡航自粛や、予定されていた会議の中止などの次々に繰り出される中国の反応を伝えます。被る被害と、こういう対応をする中国の背景を伝えます。しかし高市さんの発言そのものはほとんど問題視しません。高市発言は問題なし、と言う一貫した立場から中国の反応を伝えます。

週刊誌など、質問した野党の方がけしからん、とまで言い、中国に屈するな、といったような特集が続きます。「高市政権を叩いたら、相手の思うつぼ」というテレビのコメンテーターまで現れます。国民は一方的に、中国に責められている被害者といった感覚になってきます。こうやって世論が中国憎しになって、ひとつの方向に一方的に“世論”がつくられていきます。

果てはどこかで主客転倒して高市さん頑張れ、中国に負けるな、というよう“世論”ができあがりつつあります。こういった“世論”こそ恐いのです。

先の戦争でも、誤った方向に世論がひとつずつ形成されていって、この大きな“世論”に逆らおうものならば、たちまち、非国民！と名指され疎外されていったのです

今回の流れをみていると、世論とそれを報じるメディアにいっぱいの不安を感じてしまいます。いわゆる集団的ヒステリーです。社会に恐い空気感が広がってきつつあるのです。

今の状況は高市発言そのものが問題点です。野党もメディアも、強く高市さんに発言の撤回を求めるべきです。高市さんも発言を反省しているのであれば撤回をすべきです。

撤回する勇気をもってこそそのリーダーです。